

進撃野郎Aチーム！

南洋

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

深夜テンションでかいたらこんなのが。。

あらすじ

- ・ 巨人に対してのB案は無い。
  - ・ 一人でも最強、チームなら無敵
- そんな彼らが進撃の巨人の世界に!?

連載はしません。思い付き一発ネタです。

目次

## 進撃野郎Aチーム!

人類最強の男、リヴァイ。

しかし調査兵团には

もうひとつの最強のチームがいた。

「作戦は奇を以てよしとするべし」

そう、あろうことかあの

最強のイカれ集団がやってきたのだ。

「隊長！デカブツが去勢されて

女の子になってます！」

帽子を被りゴーグルを装着した男、

マードック

「巨人にも○○あつたらなあ・・・

ストリップで大喜びなのに」

七三分けの髪型で二枚目のハンサム、

テンプルトン

「だから壁の上はいやだつってんだろ！

もう降りるぞ俺は！」

肌黒でモヒカン＋筋肉隆々の男、

バラガス

「お前ら、くだらないお喋りと

視姦はいいかげんにしろ。

巨人から熱いラブコールがくるぞ。」

白髪で老人。なのに葉巻を堂々と吸う男、

ジョン

「仕事の時間だ、この世界でのAチームの初任務だ。

だれに喧嘩を売ったかおしえてやれ、

おれたちや

「特効野郎Aチーム!!!」

「だからもう降りるつつつてんだろお!!」

時は少し遡る。

黒髪の青年エレン・イエーガー。

訓練兵団に所属しており

その日はいつも通り対巨人

の訓練をこなしていた。

訓練が終わり食堂に向かおうとしたところ

教官から集合がかかったのだ。

何事かと思い集合した広場の先には

教官と知らない4人組が立っていた。

「貴様達に伝えることがある!!」

諸事情により詳しい事はいえないが

今日から貴様達と共に訓練を受ける者達だ!

まずは挨拶をしろ!」

いきなりなことでは戸惑いを隠せない中、

4人組の中から白髪の老人が一步出てくる。

「この4人組を纏めているジョン・スミスだ。

俺のような天才策略家じゃないとこいつら

のリーダーは勤まらない。何かあつたら

その時は宜しく頼む。」

白髪の老人、ジョンの挨拶が終わり

次に前にでてきたのはイケメンでナイスガイ

な男だった。

「テンプレートン・ペック。自慢のルックスで

女はイチコロさ。そして好きなものは可愛い女の子。

その黒髪の少女今週デートいかないかい?」

そのつぎは・・・

「B・A・バラカスだ。機械弄りは俺の得意分野だ。

巨人でもぶん殴ってみせらあ、でも飛ぶのだけは

勘弁な!」

.....

「レディース&ジェントルメーン!!

お待ちかね、マードック様だ!!

操縦なら天下一品!もちろん

巨人のあそこもな!!!」

.....

「い、以上だ!彼らは明日から訓練に

参加してもらおう!...エレン・イエーガー!

それまでに彼らに色々教えてやれ。

話は以上だ、解散!!」

え、俺?

一瞬言われたことが理解出来ずに固まるエレン。

これから先この4人組といっしょ?

そう思うとなんだか頭痛がしてきたエレンだった。